第１章　土岐市の景観

1.土岐市の地勢・沿革

土岐市は、岐阜県の東南部に位置し、名古屋市からは約 40㎞ 圏にあり、市域の面積は 116.16㎢で、その約７割を丘陵地が占め、南高北低の地形を成しています。

平均気温は 15℃前後、平均湿度 72％と温和な気候であり、夏季の降水量は多く、降雪は少ない地域です。

土岐市を含む東濃地域は、良質な陶磁器用粘土が豊富であったことから、1,300 年以上の歴史を有する美濃焼のまちとして発展してきており、黄瀬戸、瀬戸黒、志野、織部などの自由奔放な作陶による世界的にもすばらしい茶陶・高級食器が生み出されています。平成 17 年に開通した東海環状自動車道は、中央自動車道と結節しており、インターチェンジ周辺では、大規模商業施設等の立地が進むなど、豊かな自然の緑と伝統的な陶磁器産業・文化に集客機能が加わり、あらたなまちづくりの展開を迎えたところです。

参考：第五次土岐市総合計画

土岐市の地形・水系

出典：土岐市緑の基本計画

2.景観計画の意義

景観とは、住む人や訪れる人が目にするもの全てであり、自然の風景や都市における人工物を含めた「見える環境」をいいます。

景観計画は、都市、農山村等における良好な景観の形成を図ることを目的に、対象とする区域と景観形成の方針及び基準等を定めるものであり、景観法に位置づけられた計画です。

良好な景観は、国民共通の資産として、適正な制限の下で土地利用を行うこと等により、地域の個性と特色を伸長するとともに、地域の活性化に資するものであることから、地方公共団体、事業者、住民は現にある良好な景観を保全するだけでなく、新たに良好な景観を創出することを協働で進めることが必要です。

土岐市においては、景観形成に特化した計画や制度を定めていないことから、景観計画の策定をきっかけとし、地域に根付いた“キラリ”と光る景観まちづくりを進めることにより、土岐市の魅力がアップし、日常生活の質の向上と交流人口の増加による地域の活性化につながることを目指します。

景観計画は、歴史・文化資産や景勝地のためだけでなく、隠れた地域資源を発掘し、それを守り、また活用するなど、独自の景観形成の方向性を定めるものであり、景観まちづくりを進めていく第一歩としていくことに意義があるものと考えます。

景観法の適用イメージ

出典：国土交通省ホームページ

3.土岐市の景観特性と課題整理

土岐市では、かつて陶土採掘や紺青堀り[※2]などのほか、戦時中には開墾や家庭用燃料として山林伐採が進み、「日本三大はげ山」といわれるまで林地の荒廃が進みましたが、その後治山事業や石炭等の代替燃料が普及し、緑豊かな丘陵が取り戻されています。現在では、市域の約 7 割を自然や公園等の緑が占め、市南部の丘陵地にある三国山展望台からは、樹林に囲まれた土岐市街地を望むことができます。

主な市街地は、市の北部を東西に横断する土岐川及びその支流として南北に流れる肥田川、妻木川に沿って形成されており、美濃焼に関連する施設や社寺等が点在した古くから地域に根付いた旧集落や田園風景がある一方、高速道路に代表される土木構造物や大型商業施設、工業団地、住宅団地等の計画的に整備された近代的な景観も有しています。

また、市の玄関口である土岐市駅前については、都市計画道路の整備に併せたまちの顔づくりを進めているところです。

土岐川

陶のある風景（下石町）

稚児岩大橋

※2. 紺青掘り：「こんじょうぼり」と読む。紺青は陶磁器の絵付用藍色顔料の原料のことであり、明治初年にコバルトが輸入されるまで盛大に採取された。

3.1 景観の特性

土岐市の景観特性について、「自然景観」、「歴史・文化景観」、「市街地・集落景観」、「施設景観」の４つに分類整理し、景観構造を把握しました。

①自然景観の特性

南部は急峻な地形を有し、丘陵地が市域の７割を占める南高北低の地勢であることから、まちのどこからでも背景に山なみを望むことができます。植生はヒノキ・アカマツなどの針葉樹、クヌギ、カシ類などの広葉樹の二次林[※3]が大部分を占めています。

また、市内には、北部を東西に横断する土岐川をはじめとする９つの一級河川を中心に水辺の景観を形成しています。

市の南部には土岐三国山県立自然公園があるほか、陶史の森、織部の里公園、仲森特別緑地保全地区などの施設の緑がまちに潤いをもたらしています。その他、ハナノキやシデコブシなどのこの地方に特徴的な植物が季節の風情を醸し出しています。

どんぶり会館付近からの山なみ

土岐川

織部の里公園

②歴史・文化景観の特性

古くから「やきものの街」として知られる土岐市には、元屋敷陶器窯跡など、美濃焼に関連した史跡が存在しており、市を象徴する景観を形成しています。

また、市内には住宅地の中に、古墳や城跡のほか、大小多くの寺社が点在しており、地域住民にとって馴染み深く欠かせない生活風景として刻まれています。

流鏑馬

高山城跡

嶋香寺

※3. 二次林：自然林が伐採された後や焼失等により消失した後に自然に生えてきた樹林のこと

③市街地・集落景観の特性

土岐市では土岐川、肥田川、妻木川等の河川沿いの平坦地に市街地や集落が形成されています。

市の玄関口であり、中心市街地でもある JR 土岐市駅周辺は、地域の活力の低下がまちの景観にも現れている状況です。下石、駄知、妻木などの町は陶器の風景と相まった落ち着きのある地域の拠点を形成しており、鶴里には小規模ですが温泉旅館が集積しています。一方、国道沿線やインターチェンジ周辺は都市的な景観・新しい景観を呈しています。

土岐市駅

下石のまちなみ

泉町のまちなみ

④施設景観の特性

道路脇や橋梁の欄干などの陶器のオブジェが土岐市の特徴的な景観を形成しています。

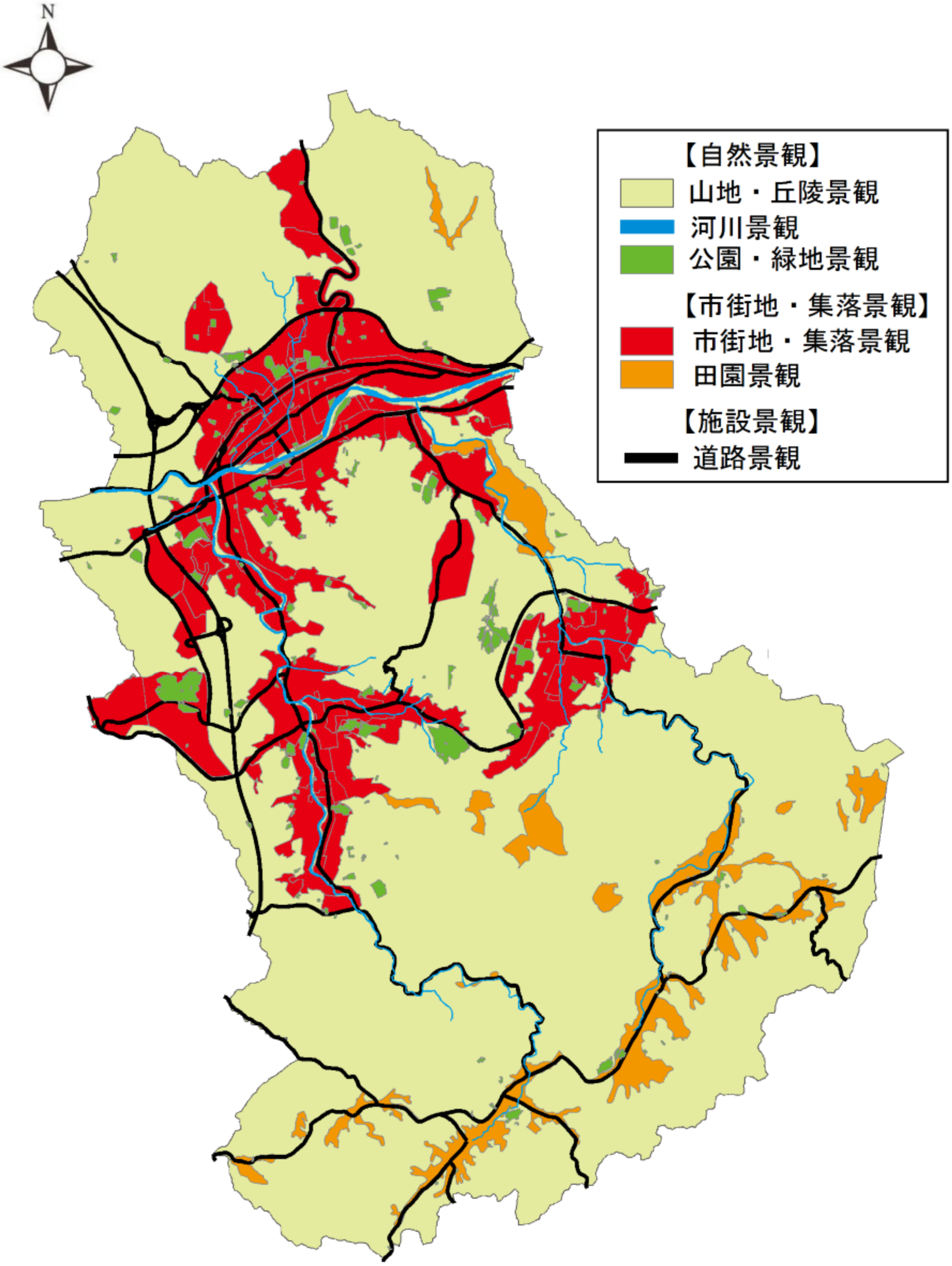
また、市内にある美濃陶磁歴史館やセラテクノ土岐などの美濃焼関連施設が、陶器のまちを情報発信するとともに、特徴的な景観をもたらしています。その他、山なみと調和したバーデンパーク SOGI など良好な建築物が周辺の景観形成の誘導的役割を担っています。

セラトピア土岐

セラテクノ土岐

伊野川に架かる橋梁の欄干

景 観 構 造 図



3.2 景観形成上の課題

土岐市の景観特性を踏まえた景観形成上の課題と景観形成を図るための取組みに関する課題は以下のように整理できます。

区分	景観形成上の課題
自然景観	・山なみ景観の保全と緑地の回復 ・眺望景観の確保と眺望阻害への配慮 ・都市に潤いとやすらぎを与える河川風景の維持 ・集落景観を構成する中小河川やため池等の水辺空間の保全 ・公園緑地の維持によるまとまりのある緑の確保 ・貴重な動植物の生息環境の保全
歴史・文化景観	・美濃焼関連の史跡等の保全 ・集落地内に点在する古墳等の史跡、寺社の保全 ・季節の風物詩となる祭事の継承
市街地・集落景観	・都市機能の充実とにぎわいのある都市景観の創出 ・観光交流拠点としての新しいにぎわい空間の創出 ・陶のある風景の保全 ・一般住宅地における周辺景観への配慮 ・温泉旅館がもたらす風情の形成 ・田園景観や落ち着きのある既存集落景観の維持
施設景観	・建築物、工作物、屋外広告物の形態等のコントロール ・景観形成を誘導する建築物や地域のランドマークの創出
景観形成の取組み	・景観への理解のさらなる醸成 ・景観づくりへの体制整備 ・市民が賛同するルールづくり